

# 宗谷よがんばれ

## 上陸成功を祈る二氏



越冬隊員勢ぞろい 二十日、永田隊長から発表された越冬隊員十一氏(前列右から佐伯(富)菊池、村越、大塚、後列右から北村、中野、砂田、作間、西堀、藤井、立見(朝比奈隊員撮影))

# 西堀隊長

## 南極越冬観測隊

【宗谷で永田隊長二十一日「延着」南極大陸に日本隊の基地を設け越冬の可能性も五〇％と判断したので諸種の準備の必要から二十日夜、越冬隊長と十名の越冬隊員候補を決定した。氏名つぎのとおり。

△越冬隊長 西堀栄三郎△越冬隊員候補 中野征紀、藤井恒男、立見辰雄、大塚正雄、村越望、作間敏夫、菊池徹、北村泰一、砂田正則、佐伯富男

△西堀栄三郎(五七) 京大理学部教授、昭和三年京大理学部卒、東京都大田区調布鶴ノ木四〇四、理博。三高時代から山岳界で活躍した山のベテラン。『分子線による化学反能基礎的研究』で博士号をとり、科学者としての

活躍が広い。その手配や山の豊富な経験が買われて観測隊副隊長に選ばれ、今回の越冬隊長にもなった。その円満な人格と年の功により越冬隊長の重責を完全に担うものと期待されている。京都出身、日本山岳会評議員。

△中野征紀(五三) 帯広市厚生病院科医長、帯広市東一条南十八丁目昭和十年北大医学部卒、北大助産を勤めたのち樺太医専教授を経て現在に至る。この間北海道や樺太の山々を歩き仲間から「長髪ニクネーム」で呼ばれている。本県出身。

△藤井恒男(四八) 朝日新聞東京本社航空部次長、東京都大田区久ヶ野町二〇八二、昭和十一年早大法学部卒、元社会部記者、京都市出身。△立見辰雄(四〇) 東大教養学部助教授、昭和十七年東大理学部卒、京都三鷹市牟礼三五五、理博、大山の会会員、教養学部山岳部

「白い大陸」を自のまえに南極観測船「宗谷」は苦闘している。悪天候、そして果てしない氷の海、海アイス(青氷)まで残すところ五カイリ。ここに入れば大ソリを降ろして南極大陸への第一歩を踏出ルドはもうすぐだ。「宗谷よがんばれ、上陸してくれ」そう感じ成功を祈る人々のなかで、札幌市北日本水産函館支社事業課増田素直さん(三三)の思いはひとしお。加納さんは京都の中学で西堀副隊長との助言をした海洋研究家。増田さんはクジラを追って、わが海のごとく南氷洋を駆けめぐった海の男

# 問題は器材の陸揚

## 愈よ樺太犬の活

きょうはもう少し進んでいるだろう。もちろん陸地と直接接収する方が好ましいのはいうまでもないが、崖壁のようなくあいにもいくまいから、宗谷で行けるところで行ったら、雪上車で器材の陸揚をすることになる。陸地まではブルー・アイス(青氷)と

### 加納 一郎さん

〇二十一日正午現在、目的地から三十七の地点であったから



に書き込みながら語る加納さん





こんどもあやま  
よう、こんどのケ  
ている。

はこれを納得し同  
た。

り二十

が増加

東京都

は、昨年十二月一

日現在の都の総人口を二十四日つ  
ぎのように発表した。これによる  
と東京都総人口は八百二十九万四  
千五百四十四人（うち男四百二十  
七万二千八百九十二人、女子四百  
二万一千六百五十二人）世帯数は  
二百二万五千四百四十世帯で、前  
年同期に比べ人口にして二十四万  
五千九百二十五人の増、世帯では  
七万三千三百三十一世帯の増加。

# 引揚げを要請

## 三団体で中共赤十字に

三団体では二十四  
んごの中共引揚  
協議した。その結  
船としての用船解  
までに現在、中共  
四十四人をはじめ

残る帰国希望者の早期引揚げを要  
請するほか、そのさいできれば中  
共への遺骨収集団の派遣について  
も申入れを行うことになり、ちか  
く中共赤十字社にこのむね打電す  
ることを申合せた。

## 樽商短大の募集要領

【小樽発】小樽商大短期大学部で  
はこのほど新年度学生募集要領を  
つぎのとおり発表した。

△募集人員 商業科（夜間課程、  
修業年限三年）約八十名。  
△出願期日 三月一日から三月二  
十日まで。

△試験日時、試験科目 四月四日  
社会（一般社会、時事問題、世界  
史、日本史、人文地理、商業経済  
のうち一科目選択）英語、五日国  
語、数学、簿記（一般数学、解析

一、解析二、幾何、簿記のうち一  
科目選択）―配点は各百点、六日  
身体検査。  
△試験場 小樽商大。  
△合格者発表 四月十一日。

# 昼より二

## 日航で

日本航空では今夏から札幌―東京  
線に低料金の夜間飛行を始める計  
画を進めている。現在同社で検討  
を進めている構想によると深夜札  
幌、東京を出発、早朝函地に到着  
する上、下二便を新設、料金は昼  
間便の二、三割安、八千円前後と大  
幅に値下げするもので、同社では  
近く夜間便利用見込みを調査、具  
体化にのりだすが、観光シーズ  
ンの最盛期七月には間に合せる予定  
という。

この夜間便が実現すると東京―  
札幌間は国鉄の二等と大差ない  
料金で利用できることとなり大  
幅な乗客増が予定されるほか、  
いままで夜間遊んでいた飛行機  
がフルに使えるなど日航にとっ  
ても経営上大きなプラスが見込  
まれている。

同社ではこの札幌―東京線の実施  
成績がよければ来年から東京―福

岡便にも実施す

堤ビル  
一部焼

二十四日午後九  
幌市南二西二堤  
茂さん（五）三  
株式会社―責任

◇こども  
①札幌小  
②こども

